

2004年5月27日~29日、韓国ソウルで開催された第14回グローバル・サミット・オブ・ウィメンでの世界の女性の活躍を報告するとともに、女性と職業意識を啓蒙する公開講座を実施した。まず大学院生活機構研究科委員長伊藤セツ教授から女性文化研究所開設当初から今回の女性学公開講座に至るまでの経緯を含む主催者挨拶があり、続いて女性文化研究所長坂東眞理子理事・教授が主要参加者や授賞式の様子等を紹介しながら、ソウルサミットの概要を報告した。

基調講演には、元Hannara党16代国会議員、サミット開催運営委員のYunsook Lee氏をお迎えした。Lee氏は女性差別撤廃条約後の韓国と日本における女性議員の進出の現状を比較、韓国での女性政策の推進状況を紹介します。「女性がもっと政治に参加すれば、法律が変わる」と日本の女性たちへエールが送られた。

次にソウルサミットで非常に話題となったマッキンゼーリポートのポイントを同社の中平優子氏から報告していただき、アジア諸国の急速に知識集約型の需要が伸びるなかで、「今後は女性の登用・活用が不可欠」というデータの提示をしていただいた。

最後に、坂東所長をコーディネーターとしたパネルディスカッションを行った。実際にサミットに参加された(株)日産自動車人事部ジェネラルマネージャー・キャリアコーチの齋藤正治氏、エイゴタウン・ドット・コム(株)副社長の岡村洋子氏、NPO法人GEWEL副代表のアン・佐渡・本城氏らパネリストからダイバーシティやワークライフバランス、リーダーシップのキーワードを基に、女性たちが職場や経営の場、社会の上で能力を開発し発揮する上での問題点の指摘や、今後日本はどう変わっていくべきかの提言がなされた。



パネルディスカッション



会場内風景

当日の参加者は109名(内訳：学生・院生9名、本学教職員23名、共催団体関係・学外者77名)で、公開講座・交流会とも盛会であった。共催のNPO法人GEWELは、ビジネス界で女性が成功するためのトレーニングプログラムを提供、国内外での女性リーダー育成を目的とする団体であり、今ソウルサミットへの参加者が中心となって今回の公開講座でその報告がなされた。女性企業家や会社経営者が目立つなか、乳児を抱いて自己実現を目指す30代女性の姿もあった。

サロンプレリユードで行われた交流会では、GEWEL相談役でもある前原金一(学)昭和女子大学副理事長、首藤宣弘昭和女子大学進路支援センター長、堀井紀壬子GEWEL代表からの挨拶の後、各自ネットワーキングや意見交換を行い、延べ3時間の公開講座を終えた。



基調講演：Yunsook Lee氏